

平成26年度  
ヤマハ発動機スポーツ振興財団  
年間事業報告書

**YMFS**  
[www.ymfs.jp](http://www.ymfs.jp)



公益財団法人  
**ヤマハ発動機スポーツ振興財団**  
Yamaha Motor Foundation for Sports

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500  
Tel. 0538-32-9827 Fax. 0538-32-1112

**YMFS**

公益財団法人  
**ヤマハ発動機スポーツ振興財団**  
Yamaha Motor Foundation for Sports



## 平成26年度 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 年間事業報告書

平成26年度の事業活動を振り返って	3
ヤマハ発動機スポーツ振興財団について	4
1. スポーツチャレンジ助成事業	6
2. スポーツ振興支援事業	10
3. スポーツ文化・啓発事業	14
<b>まとめ</b> 図表で見る YMFS 事業活動の推移	18
事業推進体制	19

## 平成26年度の 事業活動を振り返って



平成26年の我が国のスポーツ界は、ソチオリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍を皮切りに、FIFA ワールドカップブラジル大会、仁川でのアジア競技大会・アジアパラ競技大会など国際大会を通じてスポーツに対する国民の関心の高まりを感じました。また、全米オープンテニスでの錦織圭選手準優勝は、日本人選手の可能性を改めて実感させるなど、来る2020年オリンピック・パラリンピック東京開催に向けた国際競技力向上に大きな弾みになるものと期待されます。

一方、国のスポーツ推進の基本方針「スポーツ基本計画」の展開や、スポーツ行政の一元化、スポーツ庁創設に向けた議論など、日本のスポーツ振興にかかわる環境整備が着実に進むことで、スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の実現に近づいていくものと期待されます。当財団も微力ながらその一端を担っていきたいと考えております。

当財団の平成26年度事業は「新たな価値づくり（社会的価値）」と「事業の質向上」を基調とする中期事業方針の3年目として推進いたしました。関係各位のご協力のもと、社会ニーズや環境変化を踏まえた諸施策見直しや円滑な運営に努め、各事業とも概ね当初予定した成果をあげることができました。

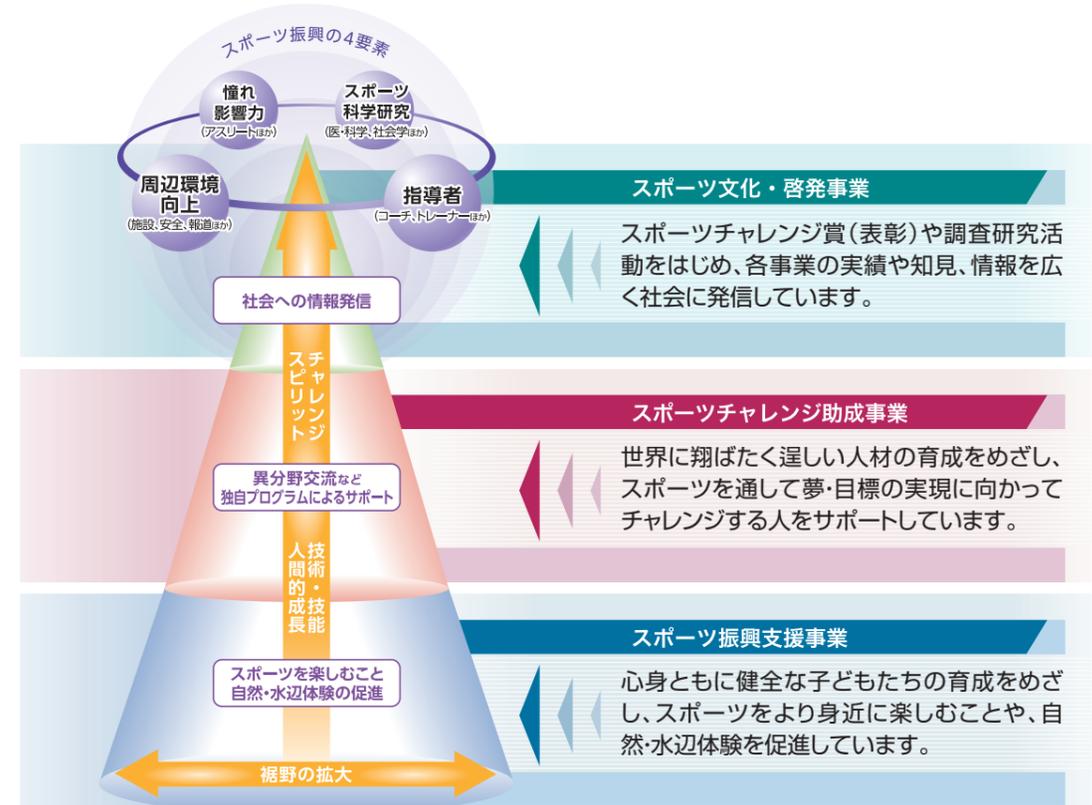
スポーツチャレンジ助成事業やスポーツ振興支援事業におけるいくつかの新たな取り組みを開始するとともに、3年目を迎えた調査研究においては障害者スポーツに関する実態調査を展開しつつ、選手・指導者・競技団体・大学に関するこれまでの調査結果をもとに、「日本のパラリンピック選手強化の現状と課題」をテーマとするシンポジウムを初開催するなど、障害者スポーツの社会的な認知向上に向けた活動を進めてきました。

当財団設立9年目となる平成27年度も、引き続き公益法人という枠組みの中での民間らしさ、「YMFSらしさ」を大切にしながら、各事業において「新たな価値づくり（社会的価値）」とさらなる「事業の質向上」にチャレンジしてまいります。

平成27年3月  
公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団  
理事長 木村 隆昭

# ヤマハ発動機スポーツ振興財団について

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)は、モータースポーツやマリンスポーツ、またサッカーやラグビーにおいて豊富な普及・振興実績を持つヤマハ発動機株式会社の創立50周年事業の一つとして、平成18年(2006年)11月に設立しました。豊かな人間性の涵養に効果的なスポーツの振興、およびスポーツ文化の向上による国家社会への貢献を事業目的として活動しています。



## 平成26年度 年間事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>事業共通</b>	◆4/24 会計監査	◆5/23 第1回理事会 ◆6/13 定時評議員会						◆10/24 第2回理事会				◆2/26 第3回理事会
<b>スポーツ文化・啓発事業</b>		◆4/22 スポーツチャレンジ賞表彰式							◆12/10・11 第1回選考委員会 ◆1/20・21 第2回選考委員会			
<b>調査研究</b>			◆6/5 第1回調査研究委員会	◆8/20 第2回調査研究委員会	◆11/6 第3回調査研究委員会	◆2/2 第4回調査研究委員会	◆12/6 シンポジウム(神戸) ◆12/13 シンポジウム(東京)					◆3/20 報告書発行
<b>情報発信</b>		「Do the Challenge」 ◆Vol.10		◆Vol.11					◆Vol.12			
<b>スポーツチャレンジ助成事業</b>	◆助成開始			◆四半期報告		◆8/29 募集リリース ◆9/1~11/17 第8期生募集期間			◆12/10・11 1次審査(書類選考) ◆1/20・21 2次審査(面接選考)			◆3/4 9期生決定リリース ◆3/13~15 チャレンジヤーズミーティング
<b>ジュニアヨット</b>	◆4/13 始業式	◆4/26 体力測定		◆7/20 水辺の安全講習会 ◆7/31~8/3 集中練習		◆8/22~24 外洋帆走訓練 OP級東日本選手権		◆10/19 保護者会	◆11/29 体力測定			◆3/8 修了式 ◆3/27~29 セーリングチャレンジカップ
<b>教材の提供</b>		提供先募集 4/15~6/9		◆6/13 抽選 ◆6/19 提供先発表								◆2/28 教材活用報告締切 ◆2月上旬~指導付募集
<b>水辺の風景画</b>		◆6/10 募集リリース			◆7/1~9/30 水辺の風景画作品募集			◆10/14 予選会 ◆10/28 本選会	◆11/25・28・12/3・10 大臣賞表彰式			◆3/5~8 ポートショー展示

**スポーツ文化・啓発事業**

- 表彰制度**: スポーツチャレンジ賞(功労賞/奨励賞)
- 調査研究**: スポーツに関わる各種調査研究活動
- 情報発信**: ウェブサイトの運営/事業報告書の発行、等

**スポーツチャレンジ助成事業**

- 助成制度**: スポーツチャレンジ体験助成、スポーツチャレンジ研究助成
- 奨学金制度**: 海外留学生奨学金、外国人留学生奨学金
- サポートプログラム**: 四半期報告/中間報告会/成果報告会、等、YMFSスポーツ・チャレンジヤーズミーティング

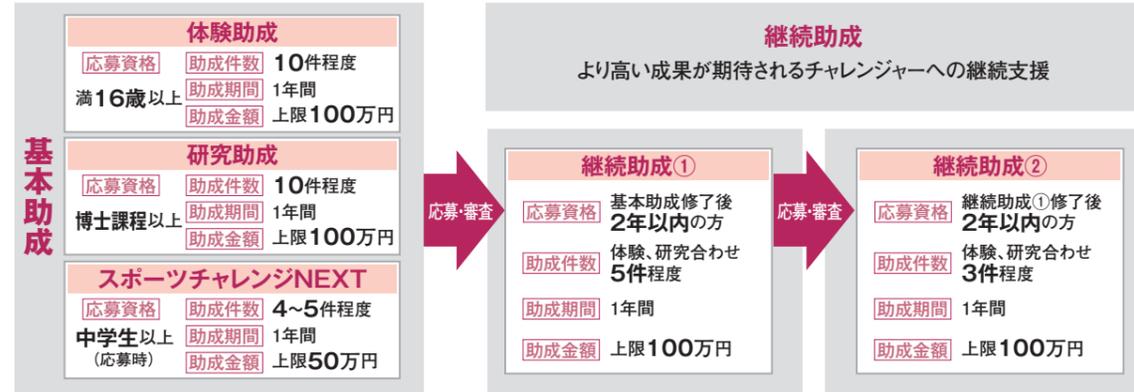
**スポーツ振興支援事業**

- スクール・競技会**: ジュニアヨットスクール葉山、セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖
- スポーツ教材提供**: サッカーボール/ラグビーセットの提供
- 自然・水辺体験促進**: 全国児童 水辺の風景画コンテスト

# 1. スポーツチャレンジ助成事業

スポーツチャレンジ助成事業は、スポーツを通じて自己の夢・目標にチャレンジするアスリートや指導者、研究者等の活動を助成する当財団の中核事業です。助成対象者（チャレンジャー）自身による目標管理、その進捗や成果を発表する報告会、また分野を超えた交流により刺激や気づきを促進する独自のサポートプログラムにより、競技成績の向上や研究の進展を支援するとともに、社会にとって有用な逞しい人材の育成をめざしています。

## ■スポーツチャレンジ助成制度の概要



## (1) 平成26年度(第8期生)に対する助成

平成26年度は、第8期生32名(件)に対して助成金の贈呈、奨学金の給与を行いました。助成金および奨学金の合計は3,112万8,755円でした。

### ■平成26年度(第8期生)

スポーツチャレンジ体験助成			
氏名	区分	種目	チャレンジテーマ
芦田 創	基本	陸上・短距離種目(障害者スポーツ)/選手	短距離種目でのリオデジネイロ・パラリンピックへの出場、そして東京へ
内山 雅貴	基本	自転車レース(ロードレース)/選手	東京オリンピック自転車ロードレースでのメダル獲得に向けた欧州UCIレースへの挑戦
大川 晴	基本	アルティメット/指導者	コンゴ民主共和国での日本人アルティメット代表監督の挑戦~2016年世界大会に向けて~
荻原 京	基本	スキー(フリースタイル・モーグル)/選手	ワールドカップ、世界選手権、オリンピックをめざして~フリースタイルスキー・モーグル~
神下 豊夢	基本	陸上・砲丸投げ(障害者スポーツ)/選手	「F46クラス男子砲丸投げ」の動作分析研究を通して2016年パラリンピック出場をめざす
佐々木 愛菜	基本	フェンシング(サーブル)/選手	東京オリンピックでのメダル獲得をめざす~フェンシング サーブル~
竹内 陽奈	基本	アイスホッケー/選手	アイスホッケー北米大学リーグへの挑戦 平昌オリンピック出場および上位入賞
田中 康大	基本	水泳(障害者スポーツ)/選手	頑張った結果は報われる~2016年リオ・パラリンピック100m平泳ぎで再び表彰台の感動を~
藤田 拓哉	基本	モーターサイクルロードレース(ロードレース)/選手	モーターサイクルロードレースにおける世界グランプリ日本人チャンピオンへの挑戦
三浦 優希	基本	アイスホッケー/選手	常にエキストラリーグで活躍する選手となり、アイスホッケー日本代表を長野大会以来の五輪に導く
柳岡 はるか	基本	フェンシング(フルール)/選手	2016・2020年のオリンピックでフェンシング日本人女子選手として初の金メダル獲得
小林 由貴	継続	スキー(クロスカントリー)/選手	平昌オリンピックでのメダル獲得~クロスカントリー王国ノルウェーのクラブチームからの挑戦~
佐藤 麻梨乃	継続	陸上・棒高跳び(障害者スポーツ)/選手	日本学生陸上競技対校選手権大会で女子聴覚障害者初の棒高跳び入賞をめざして
田中 幸太郎	継続	レスリング(フリースタイル)/選手	オリンピックメダルへの挑戦~レスリング フリースタイル~

スポーツチャレンジ研究助成			
氏名	区分	所属	チャレンジテーマ
内田 昌孝	基本	川崎医療福祉大学大学院 医療技術研究科 健康科学専攻	腸内細菌叢調節機構を介したメタボリックシンドローム発症に及ぼす自発的運動習慣の効果
内田 若希	基本	九州大学大学院 人間環境学研究院	障害のあるトップアスリートの自己変容に及ぼすスポーツドラマチック体験の影響
江島 弘晃	基本	電気通信大学大学院 情報理工学研究所 先進理工学専攻	筋細胞内のカルシウムイオン調節によるミトコンドリアの役割
大林 太郎	基本	筑波大学 人間総合科学研究科 体育科学専攻	スポーツ史からみた関東大震災(1923年)と「復興公園」の歴史的意義
北岡 祐	基本	東京大学大学院 総合文化研究科	エネルギー基質としての乳酸
庄子 博人	基本	大阪成蹊大学 マネジメント学部	スポーツを核とした街づくりを担う「スマート・ベニュー」~スタジアムにおける新たなビジネスモデルの検討~
高木 新	基本	日本体育大学大学院 体育科学研究科	低周波数電気刺激誘発性筋タンパク質合成はMAPK経路を介するか?
土屋 吉史	基本	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科	電気刺激で誘発した筋収縮が骨格筋由来の新規生理活性物質「Irisin」の分泌に及ぼす影響
西牧 未央	基本	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科	異なる急速減量の期間が生体内の酸化ストレス応答に及ぼす影響について~レスラーの健康を考える~
平山 邦明	基本	早稲田大学 スポーツ科学術院	フライオットリクトレーニングによる「パワー」発揮能力向上のメカニズムの解明
藤井 慶輔	基本	名古屋大学 総合保健体育科学センター	相手がいる状況においてバスケットボール選手が素早く動き出すメカニズムの解明
時苗 裕平	基本	立命館大学 立命館グローバルイノベーション機構	活性酸素種は運動効果を増強するか?
福谷 充輝	継続	立命館大学 総合科学技術研究機構	なぜ反動によって身体運動パフォーマンスが増強するのか?—反動による筋力増強機序の個別抽出による検証—
瀬戸 邦弘	継続	上智大学 文学部保健体育研究室	世界に広がる綱引き文化の動態研究—民族綱引き文化の世界地図作成を目指して—

海外留学生奨学金			
氏名	留学国	チャレンジテーマ	所属
作田 飛鳥	アメリカ	ソマティック・スポーツ生理学的アプローチを取り入れた舞踏訓練法の体系化と確立	早稲田大学大学院

外国人留学生奨学金			
氏名	国籍	チャレンジテーマ	所属
サヤラット ポンナリー	ラオス	ラオスのスポーツ・学校体育の現状について—運動有能感の視点から—	奈良教育大学大学院
ソン ボギョン	韓国	水泳におけるパフォーマンス向上に有効な試合前コンディションの自己調整法の開発	筑波大学大学院
フィゲロア ゴンザレス イボルト ラファエル	メキシコ	後期高齢者用のADL(日常生活動作)年齢算出式の開発	筑波大学大学院

## (2) 平成26年度(第8期生)およびOB・OGチャレンジャーの主な実績

**体験8期生** 田中 康大 (水泳・障害者スポーツ/選手)

■チャレンジテーマ  
頑張った結果は報われる~2016年リオ・パラリンピック100m平泳ぎで再び表彰台の感動を~  
10月18~24日に韓国・仁川で開催されたアジアパラ競技大会100m平泳ぎで1:07.01で優勝。200m個人メドレーは2:18.01で3位。

**体験8・9期生** 柳岡 はるか (フェンシング・フルール/選手)

■チャレンジテーマ  
2016・2020年のオリンピックでフェンシング日本人女子選手として初の金メダル獲得  
10月10~12日にグアテマラで開催された、World Cup Junior Female Floret 2014において個人・団体ともに優勝。また、3月2~9日にUAEのアブダビで開催された、2015アジアジュニア・カデフェンシング選手権女子フルールの部で優勝。



**体験6期生** 角川 隆明 (筑波大学 体育系特任教授)

■チャレンジテーマ  
競泳選手の競技力向上に向けた流体力学的な泳パフォーマンス評価法確立への試み  
4月28日~5月2日に、オーストラリア・キャンベラで開催されたXIIth International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimmingで、「A new method to evaluate breaststroke kicking technique using a pressure distribution analysis」を発表し、Archimedes Awardを受賞。

3月17日に研究論文「平泳ぎキック動作中に働く非定常流体力と足部表面の圧力分布の関係」が「体育学研究」に、3月21日に研究論文「Use of pressure distribution analysis to estimate fluid forces around a foot during breaststroke kicking」が「Sports Engineering」に、原着論文として掲載。

**体験7・8期生** 小林 由貴 (スキー・クロスカントリー/選手)

■チャレンジテーマ  
平昌オリンピックでのメダル獲得~クロスカントリー王国ノルウェーのクラブチームからの挑戦~  
12月17~18日に韓国で開かれたFar East Cupで、5kmクラシカル、10kmフリーテクニクともに優勝。また、2月18日~3月1日にノルウェーで開催されたWorld Ski Championshipsの10kmフリーテクニクにおいて自己最高の11位獲得。

**体験7期生** 羽根田 卓也 (カヌー・スラローム/選手)

■チャレンジテーマ  
カヌー・スラローム競技においてリオ五輪及びその他国際大会でのメダル獲得への取り組み  
9月14日~10月4日に韓国・仁川で開催された、第17回アジア競技大会男子スラローム・カナディアンシングルにおいて優勝。

**体験8期生** 内山 雅貴 (自転車レース・ロードレース/選手)

■チャレンジテーマ  
東京オリンピック自転車ロードレースでのメダル獲得に向けた欧州UCIレースへの挑戦  
フランスのロードレースチームに所属し、ヨーロッパを中心に多数のレースに参戦。10月16~26日にニューカレドニアで行われたTour de Nouvelle Calédonieにおいて最年少完走記録を樹立。また、一時帰国中の11月3日に大分県で行われたレース「JBCF大分クリテリウム」ではトップカテゴリーで優勝。

**研究3期生** 林 直亨 (東京工業大学 大学院教授)

■チャレンジテーマ  
運動中の眼底血流量変化を記録する試み—運動時の視覚調節機構解明への手がかり—  
研究論文「Effects of heat stress on ocular blood flow during exhaustive exercise」が「Journal of Sports Science and Medicine」に原着論文として掲載。

**奨学金5期生** 宇治 誠 (リババルジョンムア大学)

■チャレンジテーマ  
世界でも通用する指導者になるために、より高いレベルの専門的知識を修士課程と博士課程から学ぶ  
4月30日にイギリス・シェフィールドで行われたEIS主催のESANにおいて、タイトル「SPECIFIC PRACTICE CONDITIONS ENHANCE PERCEPTUAL-COGNITIVE-MOTOR SKILL ACQUISITION」を発表。  
7月3日にオランダ・アムステルダムで開かれたECSS主催のMO-BN13 Motor Control Learning 3で、「PROCESSING CONDITIONS DURING PRACTICE AND OPTIMISING SKILL ACQUISITION」を発表。

## (3) 平成27年度(第9期生)の募集と決定

スポーツチャレンジ助成および国際スポーツ奨学金の平成27年度(第9期生)の募集を行い、書類選考による1次審査と面接選考による2次審査を経て、下記のとおり決定しました。今期新設した「スポーツチャレンジNEXT」は、次代を担うアスリートの支援を目的に、中学生以上の個人・グループ・団体を対象とする助成制度です。

第9期生の助成金贈呈式は、3月13日、第8回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの会場で行いました。

### ■平成27年度(第9期生)応募状況

区分	募集期間	応募件数	採択件数	助成金額	
スポーツチャレンジ体験助成	9月1日~11月17日	基本	39	9	1,368万2,800円
		継続	8	5	
スポーツチャレンジ研究助成	9月1日~11月17日	基本	53	10	1,015万500円
		継続	1	1	
スポーツチャレンジNEXT助成		5	3	150万円	
国際スポーツ奨学金		9	6	720万円	
合計		115	34	3,253万3,300円	

■平成27年度(第9期生)

スポーツチャレンジ体験助成			
氏名	区分	種目	チャレンジテーマ
網本 麻里	基本	車いすバスケットボール(障害者スポーツ)/選手	世界へチャレンジ! 車いすバスケットボールプレイヤー
植野 琴		スノーボード・アルペン / 選手	スノーボード・アルペン 2018平昌オリンピックメダル獲得に向けて
尾崎 弘和		オリエンテーリング / 選手	オリエンテーリング世界選手権アジア歴代最高位へのチャレンジ ~その先の世界選手権メダル獲得に向けて~
小原 有賀		ボート / 選手	2020年東京五輪を見据えた長距離トレーニング:U-23世界ボート選手権でのメダル獲得を目標に
菊池 萌水		スケート(ショートトラック) / 選手	ショートトラックで世界に挑戦するために
鈴木 徹		陸上・走高跳(障害者スポーツ) / 選手	リオデジャネイロパラリンピック大会での走り高跳びにおけるメダル獲得への挑戦
保坂 史門		スノーボードクロス / 選手	スノーボードクロス競技においてワールドカップ、オリンピック出場を目指して
増田 成吾		スカッシュ / 選手	スカッシュの本場英国で世界レベルの大会優勝を目指す
八木 愛莉		カヌースラローム(カナディアンシングル) / 選手	メダル獲得を目指し東京五輪より正式種目となるカヌースラローム女子カナディアンシングルに本場欧州で挑戦
芦田 創		陸上(障害者スポーツ) / 選手	陸上競技での2016リオデジャネイロパラリンピック出場、そして東京へ
内山 雅貴	継続	自転車ロードレース / 選手	東京オリンピック自転車ロードレースでの代表選抜、メダル獲得に向けた欧州UCIレースへの挑戦
竹内 愛奈		アイスホッケー / 選手	アイスホッケー北米クラブチーム(CWHL)への挑戦 ~では平昌五輪のために~
三浦 優希		アイスホッケー / 選手	常にエキストラリーグで活躍する選手となり、アイスホッケー日本代表を長野大会以来の五輪へ導く
柳岡 はるか		フェンシング(フルール) / 選手	2016・2020年のオリンピックでフェンシング日本人女子初の金メダル獲得

スポーツチャレンジ研究助成			
氏名	区分	所属	チャレンジテーマ
江間 諒一	基本	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科	二関節筋の肥大応答におけるトレーニング動作依存性の機序の解明:協働筋・拮抗筋という視点から
大岩 奈青		国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部	生化学的指標を用いたコンディション評価の試み ~リオ五輪カヌースラローム競技でのメダル獲得を目指して~
奥津 光晴		名古屋大学大学院 システム自然科学研究科	運動による肥大脂肪細胞排除の新たな分子メカニズムの解明
北嶋 康雄		東北大学 医工学研究科	骨格筋萎縮時における筋代謝特性の解明 -骨格筋代謝物質の網羅解析による検証-
成田 健造		筑波大学大学院 人間総合科学研究科 体育科学専攻	水泳中に泳者が発揮したパワーを評価する方法論の開発
藤林 献明		立命館大学 共通教育推進機構	2020東京五輪において男子三段跳でのメダル獲得に挑戦するトップアスリート支援型研究
堀内 多恵		東京大学大学院 教育学研究科 臨床心理学コース	競技スポーツ現場と臨床心理学をつなぐ -心理的危機場面に対処するための心理教育の試み-
本城 豊之		立命館大学 グローバルイノベーション研究機構	iSAACを用いた筋ダイナミクスを反映させたスポーツ特異性トレーニングシステムの開発
鷺谷 洋輔		University of Toronto Exercise Sciences	柔道道場にみる学習実践のフィルムエスノグラフィ
渡邊 瑛季		筑波大学大学院 生命環境科学研究科 地球環境科学専攻	日本におけるスポーツツーリズムの空間的構造の解明
北岡 祐	継続	東京大学大学院 総合文化研究科	乳酸はトレーニング効果を増強するか?

スポーツチャレンジNEXT 助成			
氏名	種目	チャレンジテーマ	
上垣 光	水泳(障害者スポーツ)/選手	2020東京パラリンピック競技で金メダルをとるために、リオパラリンピック代表入りを目指す!	
ブラウン 健人マシュー	ラグビー / 選手	2019ラグビーワールドカップJAPAN大会のために何が出来るか?!	
古畑 海生	水泳 / 選手	大好きな水泳競技で進化を遂げて未来の扉を開き、本気の挑戦でオリンピック選手になる!	

海外留学生奨学金			
氏名	国籍	所属	チャレンジテーマ
大西 茉莉奈	ドイツ	ライプツィヒ大学	海外における、ジュニア世代のアスリート・指導者育成の現状の把握と、自身の指導力・語学力の向上
関口 泰樹	アメリカ	University of Arkansas	スポーツコンディショニングの勉強・研究を行うのと同時に、トレーナーとしての実際の経験を大学院で積む
向井 薫	アメリカ	New York University	プロ野球やリーグ等のスポーツ組織における、継続的発展のためのマーケティング戦略に関する研究

外国人留学生奨学金			
氏名	国籍	所属	チャレンジテーマ
フィンク ジュリウス	ドイツ	日本体育大学大学院 健康科学・スポーツ医学	レジスタントトレーニング(RT)によって分泌されるホルモンとアンドロゲン受容体が筋肥大に与える影響

(4) 助成対象者に対する各種サポートプログラム

当財団では、助成対象者に対する助成金の交付に加え、プロセス重視の「しつこい(質濃い)助成」をテーマとした各種サポートプログラムを実施しています。目標に向けての「計画」と「実行」、さらに四半期報告や中間報告会を通じての「振り返り」などPDCAサイクルによるプロセス管理を促し、さらに異分野交流による相互刺激や気づきの機会等を積極的に設けています。またそれらの活動の総決算として、年度末には「スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」を開催しています。

■中間報告会の実施(計4回)

9月から10月にかけて合計4回の中間報告会を実施しました。報告会では各チャレンジャーから活動の進捗報告が行われたほか、浅見俊雄審査委員長をはじめ各審査委員からのアドバイスが行われました。また、報告会の終了後には座談会を実施し、「フェアプレーとは何か?」をテーマに分野を超えて活発な意見交換を行いました。



中間報告会は上半期の活動を振り返り、目標達成に向けて新たなスタートを切る機会

■第8回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの開催

毎年3月に開催する「スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」は、スポーツチャレンジ助成事業の年度を締めくくる恒例行事です。平成26年度は3月13～15日の3日間にわたり、静岡県掛川市のヤマハリゾートつま恋にて開催しました。



8期生を中心に35名が発表を行った成果報告会



9期生を代表し決意を表明したカヌースラロームの八木愛莉選手



新たに32名のチャレンジャーを迎えた9期生の贈呈式



新設スポーツチャレンジNEXTの対象者は3名の新高1生



成果報告会では、分野を超えた積極的な質疑が行われた



田中康大選手と紀子さん(母)が審査委員特別賞を受賞



スポーツ交流会ではタグラグビーを体験



北川薫氏による基調講演「人類の進歩、アスリートの未来」



OB・OGチャレンジャーによって企画・運営されたスポーツ討論会



アドベンチャーレーサー田中正人氏、「日本百名山ひと筆書き」の田中陽希氏による特別講演

第8回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング プログラム	
日程	主な行事
3月13日(金)	●平成27年度 第9期生 贈呈式 ●基調講演「人類の進歩、アスリートの未来」 ●交流会
3月14日(土)	●平成26年度成果報告会(22名) ●スポーツ交流会「タグラグビー」 ●スポーツ討論会「スポーツで夢を創る・実現する『スポーツ知』で繋がる未来を目指して」
3月15日(日)	●平成26年度成果報告会(13名) ●特別講演「アドベンチャーレースへのあくなき挑戦」 ●審査委員奨励賞 / 特別賞 表彰 ●平成26年度 第8期生 修了式

## 2. スポーツ振興支援事業

スポーツ振興支援事業は、心身ともに健全な子どもたちの育成をめざし、ジュニアヨットスクールの運営やセーリング競技会の開催、スポーツ教材の提供、水辺の風景画コンテストなどを通じて、スポーツをより身近に親しむことや、自然・水辺体験の促進に取り組んでいます。

### (1) ジュニアヨットスクール葉山の運営

ジュニアヨットスクール葉山では、「心身ともに健全な逞しい人材の育成」「チームリーダーの育成」「グローバルな人材の育成」という運営方針のもとに、葉山マリーナ（神奈川県）をベースにセーリングスポーツの指導を行うとともに、各種の自然・水辺体験学習を積極的に採り入れ、総合的なプログラムとして運営しています。

#### ■水辺の安全講習会

7月20日、スクール生とその保護者を対象に水辺の安全講習会を実施しました。この体験型講習会は海洋教育の一環として行うもので、例年同様、日本ライフセービング協会のインストラクターの指導のもと、水難事故防止を目的とした座学と実技を通じて「自分の命は自分で守る」ための知識と技術を養いました。



#### ■平成26年度保護者会

10月19日、スクール生の保護者を対象にした平成26年度保護者会を実施しました。保護者会は、前期の活動報告とスクール生の成長確認、また保護者と指導者の情報交換を目的に毎年秋に実施している恒例行事です。保護者会の前後には、模擬レースの観戦や、バーベキューを囲んでの懇親パーティーも開かれました。



#### ■伊豆大島外洋帆走訓練

8月22～24日の3日間、葉山から伊豆大島への外洋帆走訓練を実施しました。スクール生は、指導者たちに見守られながら葉山から大島への往復52マイル（約96km）の航海に挑み、全員で力を合わせながら目標を達成しました。また大島滞在中には、釣りやシュノーケリングなどの体験を通じて大島の自然を楽しみました。



#### ■平成26年度修了式

3月8日に平成26年度修了式を行いました。修了式に先立って一年間の成長を確認する修了レースを実施し、観戦用の観覧船から見守る保護者の皆さんに逞しくなった姿を披露しました。修了証や検定証をスクール生一人ひとりに手渡したほか、保護者には体・心・技・知力の4項目の成長を総合的に評価した通信簿をお渡ししました。



### (2) 第23回YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

3月27～29日、静岡県立三ヶ日青年の家（静岡県浜松市）を拠点に「第23回YMFSセーリング・チャレンジカップIN浜名湖」を開催しました。今大会は、ミニホッパー級、FJ級、OP級に加え、新種目として採用した国際420級とレーザー4.7級の5クラスに、全国36クラブから集まった102隻・147人のジュニア/ユース選手が出場しました。420級、レーザー4.7級は世界選手権国内選考基準大会として位置づけられたことで、初めて参加するクラブを含め、クラブ数、選手数ともに増加しました。

また大会期間中には、GPS航跡データの活用や特別コーチを招いての指導や勉強会、さらに全国から集まった指導者の交流の場を設けることで、ジュニアセーラーの成長を支援するプログラムを実施しました。



選手宣誓をする清水ヨットスポーツ少年団の戸井選手



北は北海道、南は福岡から集まった147人の選手たち



新たに加わったレーザー4.7級



江口典秀トレーナーによる実技を交えた講義

#### 第23回YMFSセーリング・チャレンジカップIN浜名湖大会成績

OP級(参加32艇)		
1位	坂井 友里愛	江東区立小中学校セーリング部
2位	三浦風砂	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ
3位	谷口 美羽	江東区立小中学校セーリング部

ミニホッパー級(参加8艇)		
1位	大野 達也	YMFSジュニアヨットスクール葉山
2位	権正 一輝	山中湖中学校ヨット部
3位	高村 彪太郎	山中湖中学校ヨット部

レーザー4.7級(参加17艇)		
1位	池田 樹理	ユースチーム東京
2位	菅沼 汐音	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア
3位	大久保 諒	神奈川ユースヨットクラブ

420級(参加32艇)		
1位	高宮 豪太 / 櫻本 達真	慶應義塾高校ヨット部
2位	柳内 航平 / 倉内 凱吾	慶應義塾高校ヨット部
3位	吉村 彰人 / 久保田 空	慶應義塾高校ヨット部
女子優勝	花井 静亜 / 市井 菜月	岐阜県立海津明誠高校ヨット部

FJ級(参加13艇)		
1位	佐久間 航 / 中村 純也	千葉市立稲毛高校ヨット部
2位	遠藤 優太 / 真田 篤	静岡県立相良高校ヨット部
3位	田中 聡馬 / 石崎 渉太	岐阜県立海津明誠高校ヨット部
女子優勝	山田 雅 / 榎林 沙樹	静岡県立相良高校ヨット部

### (3) スポーツ教材の提供

心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国各地の保育園・幼稚園、小・中学校、特別支援学校、スポーツ団体（総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、各種スポーツクラブ）等を対象にスポーツ教材の提供を行っています。

平成26年度は、4月15日～6月9日の期間にスポーツ教材の提供先を募集し、6月13日に行った厳正な抽選によって、928件の申請の中から「スポーツ機会の充実に向けた新たな取り組み」を計画している120団体を決定しました。

また、東日本大震災の影響で、スポーツ機会の減少による体力低下や肥満児童の増加などの課題を抱えているとの教育現場からの声を踏まえ、通常提供枠とは別に、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）からの申請団体のうち、被災状況を個別に確認した53団体に対して被災地支援としてスポーツ教材を提供しました。



公益財団法人日本体育協会の岡崎助一専務理事による抽選



教材を活用して、約13,000人の子どもたちがサッカーやタグラグビーを楽しんだ



#### ■平成26年度 スポーツ教材の提供先(順不同)

##### サッカーボール（通常提供60団体+被災地支援26団体）

気仙沼市立新南中学校、学校法人マリアンハウス学園、小美玉市立納場幼稚園、犬山市立東小学校、葛飾区立東水元小学校、総合型地域スポーツクラブ鯉乃園スポーツクラブ、南相馬市立石神中学校、串本町立西向中学校、金沢市立紫錦台中学校、大玉村立大山小学校、高崎市立くらぶちこども園、宮城県立金成支援学校、甲賀市立信楽中学校、奄美市立小宿小学校、大阪市立菅北小学校、社会福祉法人愛育会西方面、葛飾区立松上小学校、白河市立白坂幼稚園、FORTE FOOTBALL ACADEMY、郡山市立金透小学校、福島市立庭坂小学校、四街道市立中央小学校、岩沼市立玉浦中学校、郡山市立湖南小学校、西郷村立西郷第一中学校サッカー部、学校法人八幡学園、高崎市立滝川小学校、江別市立豊幌小学校、高岡市北部保育園、学校法人千歳学園、学校法人プリジ学園はじめ保育園、桜島スポーツクラブ、利根町立文間小学校、特定非営利活動法人オウエンセ、学校法人黒磯幼稚園、アナンダ幼稚園、つがる市立森田中学校、枝幸町立枝幸小学校、いわき市立上野野小学校、いわき市立泉中学校、防府市立右田中学校、社会福祉法人日昇会ほっぽ保育園、小川幼稚園、あざみ野幼稚園、学校法人東明幼稚園、学校法人若松幼稚園若松第二幼稚園、社会福祉法人松柏会児童養護施設松柏学園、くろみ西幼稚園、高山市立三枝小学校、学校法人恵泉学園飯坂恵泉幼稚園、しんとくサッカースポーツ少年団、あおいキッズサッカークラブ（帯広の森・つつじヶ丘幼稚園）、学校法人福島文化幼稚園、西郷村立川谷小学校、小平市立小平第七小学校、福島こひつじ幼稚園、学校法人博多学園博多南幼稚園、福島市立飯野中学校、学校法人安楽寺学園稲葉幼稚園、学校法人小嶋幼稚園、いわき市立藤間中学校、草津市立草津小学校、鉾田市立南校小学校、学校法人ワタナベ学園霞ヶ関幼稚園、さくら市立熟田小学校、倉吉市立西郷保育園、厚木市教育委員会スポーツ政策課、社会福祉法人常香保育園、宮城県立角田支援学校、社会福祉法人興隆会児童養護施設若松学園、大阪市立田川幼稚園、学校法人三春学園三春幼稚園、八戸市立多賀台小学校、比布フットボールクラブ、関市孫六ヶ丘サッカースポーツ少年団、大浦保育園、NPO法人希楽々、相馬市立中村第二小学校、学校法人わかさ学園わかさ幼稚園、学校法人広島大谷学園大曲大谷幼稚園、鶴ヶ島市立長久保小学校、郡山市立三和小学校、東海市立加木屋小学校、学校法人いわき幼稚園、塩竈市立第一小学校、社会福祉法人菅田会菅田養徳園

##### タグラグビーセット（通常提供60団体+被災地支援27団体）

認定こども園倉吉幼稚園・倉吉保育園、常滑市立西浦南小学校、社会福祉法人裕愛会せいか保育園、利尻町教育委員会、会津坂下町立坂下南小学校、郡山市立喜久田小学校、羽生市立新郷第二小学校、本庄市立共和小学校、桜井市立纏向小学校、田村市立要田小学校、田村市立芦沢小学校、郡山市立高倉小学校、大和町立宮床小学校、岡垣町立吉木小学校、西郷村立小田倉小学校、石川町立野木沢小学校、NPO法人スポーツクラブバンビ、名張市立美旗小学校、葛飾区立高砂小学校、学校法人文化女子学院文化幼稚園、大阪市立南恩加島小学校、鏡石町立第一小学校、特定非営利活動法人総合型リクゼンたかた、いわき市立大野第一小学校、大野市立有終東小学校、大阪市立住吉川小学校、金沢市立新野町小学校、学校法人三溝学園北陽幼稚園、栃木県立佐野高校附属中学校、小松島市立小松島小学校、美祿市立嘉万小学校、岩手県立気仙光陵支援学校、NPO法人グラスルーツスポーツクラブ、足寄町立大誉地小学校、泉佐野市立長坂小学校、山田町立大沢小学校、東海市立上野中学校、長崎市立西城山小学校、宮城県立聴覚支援学校、長崎市立野母崎中学校、下関市立拓田小学校、上富町立岩田小学校、佐伯市立青山小学校、筑紫野市立山口小学校、郡山市立赤木小学校、播磨町立播磨小学校、長岡市立中之島中央小学校、のぞみ幼稚園、塩竈市立第二中学校、巻岐市立空手道連盟、仙台市立長命ヶ丘小学校、学校法人堀内学園富岡幼稚園、白河市立表郷小学校、気仙沼市立小原木小学校、白川町立白川北小学校、中津川市立福岡小学校、学校法人原釜学園原釜幼稚園、いわき市立小浜東小学校、須賀川市立仁井田小学校、佐世保市立広田小学校、夢咲クラブ、札幌市立中沼小学校、大阪市立野里幼稚園、特定非営利活動法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ、向陽台青空スポーツ少年団、いわき市スポーツ推進委員会、札幌市立稲穂小学校、女子ラグビーアカデミー BREEZE、羽島市立堀津小学校、関西大学第一中学校・高等学校ラグビー部、釜石市立小佐野小学校、郡山女子大学附属幼稚園、古都体育協会タグラグビー部グレイプマジックス、真室川町立真室川北部小学校、本宮市立本宮小学校、徳之島町立神之嶺小学校、市川市立新井小学校、鹿児島市立松原小学校、西諫早幼稚園、社会福祉法人天王谷学園、各務原市立鶴沼第一小学校、西金沢スポーツクラブ、宇都宮市立瑞穂台小学校、彦根市立亀山小学校、名張市立比奈知小学校、札幌市立澄川西小学校、須賀川市立第一中学校

#### ■「指導サポート付きタグラグビー教材の提供」(平成26年度新設)

これまでのスポーツ教材提供先からの要望を踏まえ、ヤマハ発動機株式会社の協力を得て、直接指導可能な当財団近隣地域（静岡県西部：磐田市・袋井市・掛川市・周智郡森町）をモデルエリアとして小学校を対象に募集を行い、申請のあった5校に実施しました。

提供先	
磐田市立南小学校	児童26名、教員2名
磐田市立東部小学校	児童120名
掛川市立西郷小学校	児童58名、教員13名
掛川市立中小学校	児童50名、教員4名
掛川市立土方小学校	児童29名、教員8名



### (4) 第26回「全国児童 水辺の風景画コンテスト」の開催

「全国児童 水辺の風景画コンテスト」は、未来を担う子どもたちが積極的に水辺に出かけ、発見・体験したことを、子どもらしい素直な表現で自由に描くことを通じて感性を育み、のびのびと成長するための一助となることを願って平成元年より毎年開催しています。平成26年度は、7月1日～9月30日の募集期間に、全国各地の幼稚園・保育園、小学校、絵画教室などから合計9,149点の作品が寄せられ、入選作品510点、入賞作品37点が選ばれました。応募作品には、家族や友だちと一緒に海や川など水辺の自然体験活動に積極的に取り組んでいる様子がいきいきと描かれていました。なお入賞作品は3月5～8日にパシフィコ横浜で開催された「ジャパンインターナショナルポルトショー2015」の会場に展示したほか、当財団のホームページにて紹介しています。



文部科学大臣賞 只埜 旭



国土交通大臣賞 寺島 凜太郎



環境大臣賞 築瀬 詠子



農林水産大臣賞 斎藤 愛



日展会館(東京都)で開催した本選会



入賞作品をジャパンインターナショナルポルトショー2015の会場に展示

#### 第26回「全国児童 水辺の風景画コンテスト」入賞者

賞	氏名	学年	作品名	所属
文部科学大臣賞	只埜 旭	年長	おおきなため	大崎市立松山幼稚園
国土交通大臣賞	寺島 凜太郎	5年	大きいコンテナ船	練馬区立練馬小学校
環境大臣賞	築瀬 詠子	6年	上高地の朝霧の中で観察した水鳥たち	聖ヨゼフ学園小学校
農林水産大臣賞	斎藤 愛	6年	宇佐の港まつり	高知大学教育学部附属小学校
審査員長賞	林 優衣斗	6年	鯉をだいたぞー	八頭町立大江小学校
日本マリン事業協会会長賞	杉内 奏太	4年	海底の中	高知市立小高坂小学校
日本ユネスコ協会連盟賞	山田 奈緒	年長	ステキな海とわたし	小千谷認定こども園 小千谷幼稚園
日本マリーナ・ビーチ協会会長賞	三森 楓花	5年	にじろくじらと水の都市	那須町立黒田原小学校
ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞	藤原 大輔	5年	ガシラをゲット!	加西市立北条東小学校
ヤマハ発動機賞	仁井田 恭佳	6年	水遊び	高知市立一ツ橋小学校
金賞(幼児部門)	加藤 春樹	年中	ちあなご	新田塚幼稚園
	三谷 真琴	年長	よみがえれさんご まもろうみのせかい	学校法人誠信学園誠信幼稚園
金賞(小学校低学年部門)	野田 萌生	年長	さかなとり	とくま健祥会保育園
	大江 礼	3年	逃げろ〜	明石市立二見西小学校
	曾根 杏菜	2年	イルカと私	相模原市立九沢小学校
金賞(小学校高学年部門)	清野 寛人	3年	入江のタグボート	練馬区立練馬第二小学校
	前田 詩絵	5年	みませ漁港	高知市立小高坂小学校
銀賞(幼児部門)	谷口 智哉	4年	20年後にまた会おう	磐田市立田原小学校
	石垣 為智	5年	港の夕景	八重瀬町立新城小学校
銀賞(小学校低学年部門)	長尾 匠真	年長	おおきなさかな	白うめ幼稚園
	村松 侑莉	年長	おにいちゃんとかわあそび	入野幼稚園
銀賞(小学校高学年部門)	瀧田 安雅	2歳	日和佐の海のお魚	愛媛県新居浜市
	藤 こうこ	2年	カメと私	高知大学教育学部附属小学校
銅賞(幼児部門)	伊藤 勇人	1年	よろこぶ、おさかなさん!	三次市立十日市小学校
	杉本 親月	3年	にぎやかな魚市場	鳴門教育大学附属小学校
銅賞(小学校低学年部門)	梶 大耀	6年	大きな船	南さつま市立加世田小学校
	中林 彩香	4年	浜降祭	茅ヶ崎市立柳島小学校
銅賞(小学校高学年部門)	若山 菜々峰	6年	初めての体験	明石市立二見小学校
	石鍋 桃	年長	おともだちといっしょのうみあそび	石鍋幼稚園
銅賞(小学校低学年部門)	西中 湖羽	年長	おさかなとってえ	日進幼稚園
	米元 鈴音	年中	お魚いっぱい楽しいな	周防大島町立久美保育所
銅賞(小学校高学年部門)	清水 結子	3年	思い出いっぱい はじめてのカヌー	聖心女子学院初等科
	東 瑛斗	1年	かわいじまさいこう	高知大学教育学部附属小学校
銅賞(小学校低学年部門)	村瀬 優輝	3年	楽しかったカヌー体験	美濃市立藍見小学校
	小村 有里	5年	水にうつつ私たち	加西市立北条東小学校
銅賞(小学校高学年部門)	大崎 涼夏	5年	マグロトーン	高知市立一ツ橋小学校
	鍋田 一成	6年	活気あるマグロ市場	吉田町立中央小学校

### 3. スポーツ文化・啓発事業

当財団では、スポーツを通じた心豊かな社会づくりに寄与するため、表彰制度としてのスポーツチャレンジ賞や調査研究活動を実施し、各事業の実績や知見、情報を広く社会に発信しています。

#### (1) 第7回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」は、スポーツの振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰するもので、受賞者のたゆまぬ努力と成果に敬意を表するものです。競技、指導、研究、普及、ジャーナリズムなどスポーツに関する幅広い分野において、高く評価されるに相応しい功績をあげられ、且つこれまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体にスポットをあてています。また本賞では、チャレンジスピリットあふれる受賞者のプロセスや実像を通して、チャレンジすることの尊さ、大切さや「努力は報われる」ことが社会に浸透していくことを願っています。

第7回は、競技団体、大学、報道機関等から候補者の推薦を募り、功労賞・奨励賞候補11件の中から2回の選考委員会を経て奨励賞2名を選出し、平成27年4月20日、如水会館（東京都千代田区）にて表彰式を開催しました。



第7回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 受賞者

 <p><b>【奨励賞】</b> 妻木 充法 つまき みつのり 医学博士、鍼灸あん摩マッサージ指圧師、日本体育協会公認アスレティックトレーナーマスター 公正なジャッジを支える「鍼治療」の技術</p>	 <p><b>【奨励賞】</b> 門田 正久 もんでん まさひさ 理学療法士、日本体育協会公認アスレティックトレーナー、日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツトレーナー、介護予防主任運動指導員 障害者アスリートのメディカルサポート環境を拡充する取り組み</p>
--	--

#### ■選考経緯／浅見俊雄選考委員長

妻木氏は、これまで五輪を含む通算22のサッカー国際大会で鍼治療の手技を振るい、各国から集まるトップレフェリーのメディカルサポートを行ってこられた。37年におよぶトレーナーとしての経験と確かな医療知識に裏付けられた施術は各国のレフェリーから絶大な信頼を受けている。また門田氏は、パラリンピック等でのトレーナーとしての活躍はもちろんだが、障害者スポーツトレーナーの第一人者として、障がい者スポーツトレーナー制度の創設などにも尽力された。今回も各方面から素晴らしい候補者の推薦をいただいたが、中でも受賞されたお二人のチャレンジと功績は、まさに縁の下の力持ちとして称賛されるべきもの。日本のスポーツを縁の下から支えているたくさんの人々の代表として、このお二人を選考できたことを誇りに思う。



#### 受賞者のコメント

##### 妻木 充法 氏



1982年に日本代表のトレーナーになって以来、ワールドカップに行きたいと強く思うようになった。2002年の日韓大会でその目標を実現でき、それ以降も何度もワールドカップに参加させていただいて、自分としては本当に幸せな人生だと思う。大会では各国のレフェリーのケアを行うが、根底には常に「日本サッカーのために」という思いがある。62歳になるが、奨励賞をいただいたその背景には「まだまだやれよ」というメッセージがあると受け止めている。皆さんに求められる限り続けていきたい。

#### 祝福メッセージ

##### 大仁 邦彌 氏

公益財団法人日本サッカー協会 会長



現代のサッカーは、ますます速く激しくなっている。当然ながら、それにつれてレフェリーの消耗も激しい。こうした中で公正なジャッジを行うためには、妻木さんのような存在がなくてはならない。世界のトップレフェリーはもちろん、FIFAの理事まで妻木さんの治療を受けることがある。FIFAから直接の指名を受けるような存在が日本にいることが誇らしい、たいへん名譽なこと。世界の妻木さんのファンとともに、この受賞をお祝いさせていただきたい。

##### 関口 正雄 氏

学校法人滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校 校長



妻木先生は、私どもの学生にとって最高の目標。職業人としての技術や知識はもちろんだが、十分な実績があるにもかかわらず社会人として大学院に通うなど、学ぶ姿勢を身をもって示してくださった。トレーナーとしての活動はもちろん、これからは副学校長として学生の指導にリーダーシップを発揮していただきたい。

#### 受賞者のコメント

##### 門田 正久 氏



妻木さんは、同じトレーナーとして雲の上のような存在。そのような方の隣で表彰していただけることは身に余る光栄。2020年という大きな目標に向けて、いま日本が一丸となって動き始めている。今回表彰していただいたことを励みに、そこに向けて全力で取り組むとともに、障害者が「どこでもスポーツができて、どこにもサポートする人がいる」という社会をつくるために力を注いでいきたい。

#### 祝福メッセージ

##### 中森 邦男 氏

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 強化部長  
日本パラリンピック委員会 事務局長



2004年のアテネ大会で、初めて門田さんにパラリンピックに帯同してもらった。朝の5時から深夜まで、ひっきりなしに訪ねてくる選手たちを全力でケアしていたその姿をよく覚えている。選手たちはケアを受けながら、門田さんに相談ごともしていたようだ。常に笑顔で元気いっぱい。そうした人柄が選手に口を開かせるのだろう。2020年に向けてはオールジャパンでトレーナー体制をつくっていかなくてはならない。これからも門田さんにリーダーシップを発揮していただきたい。

##### 山田 登志夫 氏

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 常務理事



門田さんは、日本障害者スポーツ界にとってなくてはならない存在。2020年パラリンピックに向けて国内の機運が高まっているが、門田さんにはこれからもその力を貸していただきたい。もう一つ、彼がこれだけの活躍ができるのも、勤務先の皆様のご理解とご協力があったこと。この場をお借りしてお礼を申し上げたい。

#### スポーツチャレンジ賞 歴代受賞者

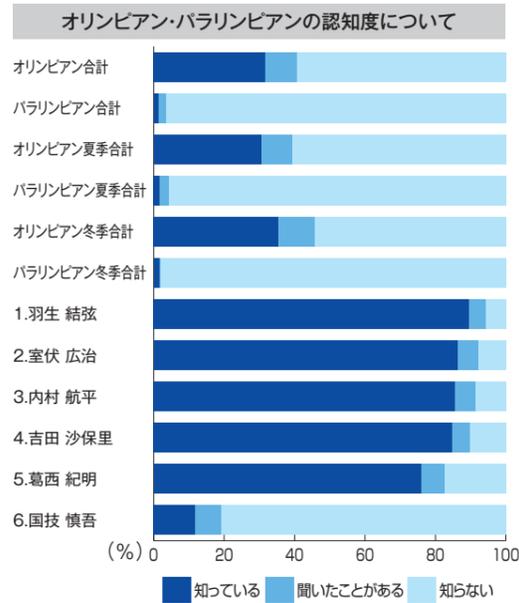
回数	功労賞	奨励賞	受賞者	受賞内容
第1回 平成20年度	功労賞	中野 政美	柔道指導者	女子柔道の世界レベル選手の育成と女子柔道の発展
	奨励賞	丸山 弘道	車いすテニス指導者	北京パラリンピック金メダルへのチャレンジ
第2回 平成21年度	功労賞	塚越 克己	スポーツ医・科学研究者	日本のスポーツ医・科学の発展を牽引した「縁の下の力持ち」
	奨励賞	増田 雄一	アスレティックトレーナー	トップレベルのサポート技術を一般レベルに拡大する取り組み
第3回 平成22年度	功労賞	高田 静夫	サッカー審判員	日本人審判員の育成をめざした各種制度の確立と運用
	奨励賞	中村 宏之	陸上指導者	雪国から世界をめざすトレーニングの独自開発と実践
第4回 平成23年度	功労賞	岸本 健	アイススレッジホッケー指導者	強化システムの大改革で日本初のメダル獲得にチャレンジ
	奨励賞	水谷 卓人	スポーツ写真家	スポーツ写真家の草分けとして、スポーツ報道の機会拡大に貢献
第5回 平成24年度	功労賞	樋口 豊	スポーツ写真家	独自の表現でスポーツの魅力を伝え、スポーツ写真家の育成・環境整備にも尽力
	奨励賞	江黒 直樹	フィギュアスケートコーチ、振付師、解説者	国際的な信頼と幅広いネットワークを活かし、日本フィギュアスケートの「開国」に貢献
第6回 平成25年度	功労賞	白井 二美男	ゴールボール女子日本代表チーム ヘッドコーチ	「楽しいリハビリスポーツ」の普及をめざした 日本女子ゴールボールチーム 金メダルへの挑戦
	奨励賞	東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 戦略広報部	技師・研究員、義肢装具士	スポーツ用義足の第一人者として「走る喜び」を提供する挑戦
第7回 平成26年度	功労賞	妻木 充法	医学博士、鍼灸あん摩マッサージ指圧師、アスレティックトレーナー	公正なジャッジを支える「鍼治療」の技術
	奨励賞	門田 正久	理学療法士、アスレティックトレーナー、障がい者スポーツトレーナー	障害者アスリートのメディカルサポート環境を拡充する取り組み

## (2) 調査研究

当財団のこれまでの事業経験をもとに、スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題の解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究委員会を設置して活動し、その成果を広く社会に発信しています。

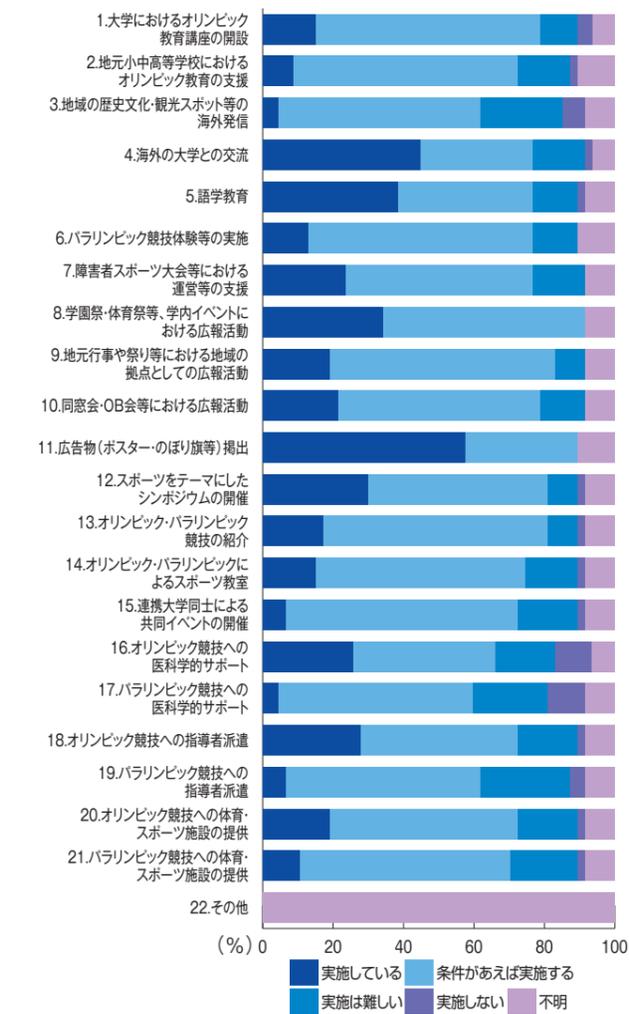
### ■「障害者スポーツ選手発掘・育成システムの現状と今後の方向性に関する調査研究」(平成26年度)

平成24年度から障害者スポーツの現状に関する調査研究委員会を設置し、「大学における障害者スポーツの現状に関する調査」(平成24年度)、「我が国のパラリンピアンを取り巻くスポーツ環境調査」(平成25年度)を実施し、その実態を報告しました。3年目となる平成26年度は、「障害者スポーツ選手発掘・育成システムの現状と今後の方向性に関する調査研究」に取り組み、障害者スポーツ選手の発掘、育成、強化の課題を明らかにするとともに、今後の進むべき方向性について報告書にまとめました。報告書は、当財団ウェブサイトからもダウンロードできます。  
(<http://www.ymfs.jp/project/culture/survey/005>)



図は、ロンドンオリンピックおよびソチオリンピックの個人種目メダリスト33名および、ロンドンパラリンピックおよびソチパラリンピック個人種目メダリスト15名の認知度を合計した。認知度は「知っている」と「聞いたことがある」の合計値を指標としている。オリンピックの認知度では、平均してオリンピックの41.2%に比べて、パラリンピアンは4.5%であった。個別にみると、羽生結弦(94.1%)、室伏広治(92.2%)、内村航平(91.4%)、吉田沙保里(89.8%)、葛西紀明(82.6%)らが上位となっている。一方のパラリンピアン認知度では、国枝慎吾19.1%がトップでパラリンピアンの中では群を抜いていたが、他のパラリンピック大会メダリストのほとんどは5%未満の水準にあり、社会的に認知されているとは言い難い状況にある。

#### 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定項目の実施状況



### ■シンポジウム

平成24年度から取り組んでいる障害者スポーツをテーマとしたシンポジウムを、兵庫県と東京都で開催しました。

12月6日に兵庫県神戸市で開催した「日本のパラリンピック選手強化の現状と課題 アダプト・スポーツのこれから～多様性とつながり～」は、第35回医療体育研究会、第18回日本アダプト体育・スポーツ学会との共催で開催され、調査研究委員会の海老原修委員長による平成25年度「日本のパラリンピック選手強化の現状と課題」の調査報告によって浮かび上がった課題を共有するとともに、パラリンピック選手強化に向けて大学や医療・リハビリ機関等がどのような貢献ができるのか、パネルディスカッションを通じて議論が行われました。

12月13日に東京都大手町で開催した「日本のパラリンピック選手強化の現状と課題」では、海老原調査研究委員長による平成25年度調査報告に基づき、シンポジストからは「選手の立場からの競技力向上」、「各競技団体の現状と課題」、「政府や自治体のスポーツ政策」、「選手の生活を支える企業のあり方」についての報告があり、その後、障害者スポーツ環境の向上および世界で活躍するアスリートの育成・支援などについての活発な意見交換が行われました。



## (3) 情報発信／広報活動の展開

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与するため、ホームページなどを通じて当財団の活動を広く社会に発信するとともに、その拡充に努めています。

### ■ホームページ

当財団のホームページでは、高い目標に向かって取り組むスポーツチャレンジ助成の助成対象者の紹介や、スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングで実施した各種講演の報告、またジュニアヨットスクール葉山の活動レポートや、各種事業の募集情報等を掲載しています。



YMFSホームページ

### ■チャレンジャーズ・ネットワーキング・システム(CNS)

スポーツチャレンジ助成の助成対象者同士の交流を目的とした「チャレンジャーズ・ネットワーキング・システム(CNS)」を運営しています。助成対象者の四半期報告なども、このシステムを通じて行われています。



CNS

### チャレンジすることの尊さを社会に伝える スペシャルコンテンツ

## BACK STORIES

「BACK STORIES (バック・ストーリーズ)」は、ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞のスペシャルコンテンツです。「緑の下の力持ち」の存在を広く紹介するとともに、チャレンジすることの尊さ・大切さを伝えることを目的に、受賞者が高い目標に向けてチャレンジするそのプロセスをスポーツ誌等で活躍する近藤篤氏の写真と文章で紹介しています。平成26年度は、功労賞の受賞者である臼井二美氏(義肢研究員、義肢装具士)と、奨励賞を受賞した東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会戦略広報部のチャレンジを紹介しました。



### ■チャレンジャー会報誌「Do the Challenge」

スポーツチャレンジ助成の助成対象者(OB・OGを含む)の活動を伝える会報誌「Do the Challenge」(A4判・4ページ)を4月・7月・12月の計3回発行しました。



Do the Challenge

# 【まとめ】 図表で見るYMFS 事業の推移

スポーツチャレンジ助成事業 申請・助成件数推移



スポーツチャレンジ助成採択件数 (内訳)



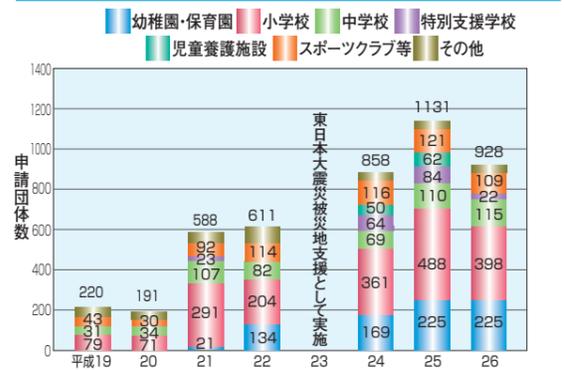
ジュニアヨットスクール葉山 生徒数推移



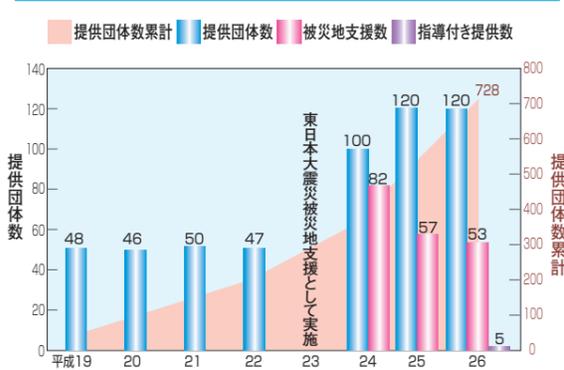
セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖参加数



スポーツ教材の提供 申請団体内訳



スポーツ教材の提供 提供数推移



水辺の風景画コンテスト 応募団体内訳



水辺の風景画コンテスト 応募数推移



## 事業推進体制

平成27年3月31日現在 ※敬称略・五十音順

評議員 (10名)

役職	氏名	現職
評議員	遠藤 功	ヤマハ発動機株式会社 監査役
	大坪 豊生	ヤマハ発動機株式会社 元顧問
	岡崎 助一	公益財団法人日本体育協会 専務理事 (元文部省競技スポーツ課長)
	塩谷 立	衆議院議員
	武井 一浩	弁護士
	戸田 邦司	一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会 会長 (元運輸省海上技術安全局長)
	西山 正樹	ヤマハ発動機株式会社 顧問 (元警察庁中部管区 警察局長)
	晝馬 明	浜松ホトニクス株式会社 代表取締役社長
	柳 弘之	ヤマハ発動機株式会社 代表取締役社長
	柳澤 伯夫	城西国際大学 学長 (元衆議院議員)

理事 (8名)

役職	氏名	現職
理事長	木村 隆昭	ヤマハ発動機株式会社 代表取締役副社長
常務理事	杉本 典彦	公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 事務局長兼任
理事	浅見 俊雄	東京大学 名誉教授、日本体育大学 名誉教授
	伊坂 忠夫	立命館大学スポーツ健康科学部 副学部長 教授
	定本 朋子	日本女子体育大学大学院 研究科長、基礎体力研究所 所長 教授
	佐藤 潤	株式会社電通スポーツ局 局次長
	橋本 義明	ヤマハ発動機株式会社 顧問
	柳 敏晴	神戸常盤大学教育イノベーション機構長 教授

監事 (2名)

役職	氏名	現職
監事	加山 秀剛	新日本有限責任監査法人 パートナー 公認会計士
	渡辺 政弥	ヤマハ発動機株式会社 統合監査部 部長

スポーツチャレンジ助成 審査委員

役職	氏名	現職
審査委員長	浅見 俊雄	東京大学 名誉教授、日本体育大学 名誉教授
	伊坂 忠夫	立命館大学スポーツ健康科学部 副学部長 教授
	今給黎 教子	海洋スポーツインストラクター、冒険家
	衛藤 隆	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所 所長、東京大学 名誉教授
	遠藤 保子	立命館大学産業社会学部 教授
	景山 一郎	日本大学生産工学部 教授
	川上 泰雄	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
	北川 薫	中京大学 学長、中京大学大学院体育学研究科スポーツ科学部 教授
	草加 浩平	東京大学大学院工学系研究科 特任教授
	小西 由里子	国際武道大学体育学部 教授
審査委員	定本 朋子	日本女子体育大学大学院 研究科長、基礎体力研究所 所長 教授
	篠原 菊紀	諏訪東京理科大学共通教育センター 教授
	杉本 龍勇	法政大学経済学部 教授(元陸上選手)
	高橋 義雄	筑波大学体育系 准教授
	福永 哲夫	鹿屋体育大学 学長、東京大学 名誉教授
	増田 和実	金沢大学人間社会研究域人間科学系 教授
	丸山 弘道	株式会社オフィス丸山弘道
	村田 亙	専修大学ラグビー部 監督(元ラグビー選手)
	山本 裕二	名古屋大学総合保険体育科学センター 教授
	ヨーコ ゼッターランド	嘉悦大学女子バレーボール部 監督(元バレーボール選手)
	綿貫 茂喜	九州大学大学院芸術工学研究院 教授

ジュニアヨットスクール葉山 指導員

クラス	氏名
エキスパート/クラブ	主任コーチ 箱守 康之 (日本体育協会公認上級コーチ、赤十字救急法救助員)
	コーチ 柴田 牧子
	コーチ 清水 大資 (日本体育協会公認コーチ、救急救助員)
	コーチ 千足 菜穂
	コーチ 飛内 航太
ベーシック/マスター	主任コーチ 湯原 浩一 (日本体育協会公認スポーツリーダー、救急救助員)
	コーチ 上松 慮生 (日本体育協会公認指導員、救急救助員)
	コーチ 竹腰 真紀子(栄養士)
	コーチ 長谷 美和子
	コーチ 藤野 恵梨香
全クラス担当	トレーナー 水野 元晴(アスレティックトレーナー)
	コーチ 木下 隆介
	コーチ 小池 哲生
サポートコーチ	鎌田 祥一

スポーツ教材の提供 抽選者

氏名	現職
岡崎 助一	公益財団法人日本体育協会 専務理事 (元文部省競技スポーツ課長)

第26回「全国児童 水辺の風景画コンテスト」審査員

役職	氏名	現職
審査委員長	工藤 和男	一般社団法人創元会 会長、公益社団法人日展 評議員
審査員	岡田 正文	NPO法人ジャパンゲームフィッシュ協会事務局 事業部長
	小川 尊一	一般社団法人創元会 副理事長、公益社団法人日展 評議員
	小野 保	文部科学省スポーツ・青少年局青少年課 青少年教育官
	久保 まり	国土交通省港湾局海洋・環境課 専門官
	佐藤 克子	環境省水・大気環境局水環境課 課長補佐
	杉本 典彦	公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 常務理事
	杉山 悦照	一般社団法人創元会 会員、浜松美術協会 会員
	鈴木 正典	ヤマハ発動機株式会社人事総務本部総務部 部長
	釣谷 康	一般社団法人日本マリン事業協会 専務理事
	服部 謙司	一般社団法人創元会 会員、公益社団法人日展 会友
	間瀬 雅晴	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 理事
	柳瀬 知之	農林水産省水産庁漁漁場整備部計画課 課長補佐
	山下 雅人	一般社団法人日本マリナー・ビーチ協会 理事

ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 選考委員

役職	氏名	現職
選考委員長	浅見 俊雄	東京大学 名誉教授、日本体育大学 名誉教授
選考委員	スポーツチャレンジ助成事業 審査委員が兼務	

調査研究委員会

役職	氏名	現職
担当理事	浅見 俊雄	東京大学 名誉教授、日本体育大学 名誉教授
委員長	海老原 修	横浜国立大学教育人間科学部 教授
委員	岡本 純也	一橋大学大学院商学研究科 准教授
	河西 正博	びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部 助教
	齊藤 まゆみ	筑波大学体育系 准教授
	澁谷 茂樹	公益財団法人笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所 主任研究員
	高橋 義雄	筑波大学体育系 准教授
	田中 暢子	桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 准教授
	中森 邦男	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会強化部 部長、日本パラリンピック委員会 事務局長
	難波 真理	学校法人天理大学天理スポーツ推進室 室員
	藤田 紀昭	同志社大学スポーツ健康科学部 教授